

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

国民体育大会ブロック大会少年女子のA県対B県の試合のときに次のようなことがあり裁定に苦慮しましたので教えてください。状況は次の通りでした。

A県の選手がコート中央のネット付近でボレーを行い、そのボールが副審側のサイドラインを越え副審がアウトのサインをしました。

- ①A県の選手が副審に質問を行いました。
- ②副審が手をあげアウトのサインをした。
- ③A県の選手はもう一度質問し副審がアウトのサインをした。(競技規則第40条 異議申し立ての禁止)
- ④副審が手をあげてサインをしたので監督は再判定の結果を理解しているはずなのにA県の監督が出てきて選手と一緒にネットを越えて副審に異議を申し立てた。(競技規則第40条 解説17の2項)
- ⑤A県の監督は前からある別の痕跡を指さし副審と正審に詰め寄った。(競技規則第40条 解説17の2項)

以上の行為に対して、アンパイヤーの判定はA県の監督の異議を認め、インとなりA県のポイントとし、A県に1枚のイエローカードを出しました。しかし、

- ⑥別の痕跡を指さし、あたかもその痕跡が正しいように見せるのは、競技規則第40条(異議申し立ての禁止) 解説17の3項の痕跡を消すことの禁止と同じように「インターフェア」で失ポイントにはできないのでしょうか。また、3回以上の警告に値する行為があるので、レフリーと協議のうえ失格にしてもよいのではないのでしょうか。

根本的には選手の2回目の質問の時に、すぐにイエローカードが出せなかったアンパイヤーの審判技術に問題があり、そこが始まりですが、国体の監督なので、このケースのルールをよく理解した上で、わざとマッチの流れを変えるために行っているとしたかと思えてなりません。今後のソフトテニスの発展のためにも厳しい判定が必要だと思えます。大会が終了しているので今回の結果に対してはどのようなありませんが、今後の大会では、どんなに大切な大会であっても、どんなに偉い監督であっても、警告し、失格にしていくことが大切だと思いますがいかがでしょうか。

Answer

アンパイヤーはマッチ中に判定等についてプレーヤーから質問があった場合は、内容を確認の上、再度判定の結果を**正審**から通告する。以後、当該通告に関するプレーヤーからの問合せは**異議**とみなし、競技規則第41条(警告)及び第42条の(失格)の規定により処理することになります。対応にあたっては、「質問に対する対応フローチャート」を参照し**手順を間違わないように!**

ご質問者は、今大会のレフェリーの立場の方と推察いたしますが、判定に関わらなかったのでしょうか? 今回の事例は、とても残念で厳しいようですが、

アンパイヤーの対応のまずさから起きたことだと思います。アンパイヤーが競技規則と質問に対応するためのフローチャートを理解していたなら、こんな

結果にならなかったと思います。

先ず、副審のアウトの判定は自信がなかったのでしょうか。A県の監督さんは副審の判定の自信のなさをお見通しで、プレーヤーに代わって、ネットを越えプレーヤーと一緒に監督の立場で異議の申し立てをし、アンパイヤーはズルズル聞き入れて、最終的には判定を覆して監督の言い分を聞き入れています。B県の監督は何も言われなかったのでしょうか。もっともよくない事例となりました。

何故、副審は自分のアウトと判定を下した根拠（痕跡）を守れなかったのか。そして、再度質問があった時にアウトの痕跡を確認して、再度の判定の結果を正審に伝えて、正審から通告しないでその場でアウトのサインをしたのでしょうか（審判規則第14条）。その結果、監督が出てこようとした時にイエローになります。よろしいのでしょうか、と言えなかったこと。その上で、プレーヤーと一緒に監督がネットを越えようとした時に、「ネットを越えると警告（イエローカード）になります。」と言って留められなかったこと。更に、アンパイヤーもプレーヤー・監督と一緒に痕跡を確認していること（競技規則40条【解説17】の2）等の問題点があげられます。

貴殿が言われているとおり「根本的には選手の2回目の質問の時」と気付かれています。このタイミング（アウト・インの質問があった時）に副審の判定区分ですので、痕跡を再度確認した上で正審に伝え、正審からアウトの判定を下すことが手順の基本でした（審判規則第14条）。次に、「このネットを越えて」、行こうとした時、何故、「ネットを越えて行かれるとイエローになります。」と、言えなかったのか、越えた時点でイエローカード2枚目を出し、「タイム」を取りレフェリーへ連絡し善処しなかったのでしょうか。④以降⑥は審判団の取るべきことではありません。レフェリーへの連絡がなくアンパイヤーで処理したのでしょうか。アンパイヤーは何をしておられたのか、文章には見えません。

ソフトテニスの発展のためにも厳しい判定が必要だと思われるなら、失格にすることが大切なことでは

なく、アンパイヤーが質問を認めたのであれば、フローチャートに従って対応し、やむなく失格にせざるを得ないところまでくれば、正審は最終的にレフェリーと協議の上、失格を宣告することに至ります。

今回の「アンパイヤーが監督の言いなりになった」その責任は、アンパイヤーの質問に対する対応のまずさであって、監督に責任を転嫁させようとしている事のほうに問題があるのではないのでしょうか。

今後、ブロック大会等のレフェリー・アンパイヤーを担当される方々は、現場で質問がありイエローカードが出された場合は、早目にレフェリーに連絡を取り、見守って情報収集することで対応がスムーズに出来ると思います。次ページの「質問に対する対応フローチャート」を参照いただき、ご研鑽をお願いいたします。

【関連規則】

競技規則第40条（異議申し立ての禁止）、解説17、第41条（警告）、第42条（失格）

審判規則第14条（再判定）、解説25、

第15条（判定の誤り）、第20条（警告）、第21条（失格）
ジュニア審判マニュアル

競技規則について

15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか？

17. 警告、18. 失格になるのはどんなときか？

審判規則について

5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）

6. 判定を間違えたときは？（判定の誤り）



質問に対する対応手順フローチャート

判定

質問

認めない

プレー再開

プレーを再開しない

◎イエローカード
1枚目提示

プレー再開

プレーを再開しない

「判定は変わりません。
再開しなければ
2回目の警告(イエローカード)とします」
◎イエローカード2枚目提示

プレー再開

プレーを再開しない

プレー再開

レフェリーと連絡を取る

正審・レフェリー・競技責任者で協議
◎レッドカード提示・失格宣告
(レフェリーストップ ゲームセット)

認める

(正審)

(副審)

「タイム」

「タイム」(サインとコール)

質問は1人

プレーヤー・監督を

主張をよく聞く

現場に近づけない

ベンチに待機させる

正審と協議する

副審と協議する

必要があれば
痕跡の確認と報告

判定を変える

判定を変えない

「確認の結果〇〇でした」
スコアの確認「ノータイム」
ポイントカウントのコール

プレーに支障あり

「確認の結果〇〇でしたので
ノーカウント」
(サービスの場合レット)
(副審はサインとコール)
スコアの確認「ノータイム」
「ポイントカウントのコール」

プレーに支障なし

「確認の結果〇〇でした」
判定を訂正する
スコアの確認「ノータイム」
「ポイントカウントのコール」

プレー再開

プレーを再開しない

◎イエローカード1枚目提示

プレーを再開しない

「判定は変わりません。再開しなければ
2回目の警告(イエローカード)とします」
◎イエローカード2枚目提示

プレー再開

スコアの確認「ノータイム」
ポイントカウントのコール

プレーを再開しない